

中国の軍隊が「空母キラー」弾道ミサイルを開発し、アメリカの主要な戦力投射ツールの1つである、比類のない空母艦隊を脅かしていると聞いたことがあるかもしれません。1あるいは、中国が独自の空母を台湾海峡と南シナ海に配備したことについて読んだことがあるかもしれません。しかし、空母のような厳重に防御された移動標的は外洋で攻撃するのが難しいでしょう、そして中国自身の空母（またはそのような2つか3つさえ）が怒りで外洋に冒険するならば、米国の潜水艦部隊はおそらく短い仕事をするでしょう。2 現実には、アジアにおける米国の重要な利益に対する最大の軍事的脅威は、やや注目されていないものかもしれません。それは、この地域の米国の基地を脅かす中国のミサイル軍の能力の高まりです。

アジアで地政学的緊張が高まる中、米国の指導者と政策立案者は、予期せぬ米中危機、特に中国の主張する中核的戦略的利益または中国共産党の正当性を脅かすと思われる危機が発生した場合、先制的であることを理解する必要があります。西太平洋の米軍力を支える前方基地に対するミサイル攻撃は現実的な可能性である可能性があります。これは特に、中国が米国の主要な介入を抑止する試みが失敗したと認識している場合に当てはまる可能性があります。たとえば、台湾の兩岸危機や尖閣諸島をめぐる醸造紛争などです。3現代の長距離精密兵器の採用に関連する明確な先発者の利点に部分的に駆り立てられて、そのような先制攻撃は中国のミサイル部隊の教義と軍事戦略に関する入手可能な情報と一致しているように見えます。その実行を実践するための中国の努力。

しかし、中国は先制ミサイルストライキを実行するために必要なミサイル部隊を持っているのでしょうか、そしてそれは米国とアジアの同盟ミサイル防衛に対して機能するのでしょうか？これらの質問に答えるために分析を行いました。米国の戦力投射部隊とアジアの基地の荒廃の可能性を示す私たちのモデリングとシミュレーションの結果は、深く懸念されており、行動を呼びかけています。

1966年に人民解放軍ロケット第2砲兵隊（SAC）として正式に設立された中国の弾道ミサイル部隊は、もともと核抑止に重点を置いていました。4 1990～91年の湾岸戦争中のイラク軍に対する米国の精密ストライク巡航ミサイルの驚くべき成功に関する中国の分析によって知らされたこの軍は、「二重抑止と二重操作。」5 2013年にプロジェクト2049のイアン・ストーンによって「発射体中心の戦略」として説明されたものを採用した結果、中国はプラットフォームではなく、個々の発射体（巡航ミサイルや弾道ミサイルなど）を介した精密攻撃弾の発射に焦点を合わせました。米国の電力予測の特徴であるベースの攻撃力（航空機、船、潜水艦など）。6 この戦略は、プラットフォーム機能における中国の不利な点を最小限に抑え、劇場の地理（米国および同盟国のアジアにおける戦略的深さの欠如）、財政的非対称性（中国の軍需品生産の低コスト）、国際法のギャップ（中国の米露中間核軍条約への不参加）。7 人民解放軍ロケット軍は、この新しいアプローチは、中国が「近代的でハイテクな条件下での地域戦争」と呼んでいる間、基本的であり、ミサイルの質と量の両方を改善する必要があることを早期に認識しました。8 この変革を通じて規模が拡大した中国のミサイル部隊は、現在約100,000人の要員で構成されています9。これは、米国の主要な弾道ミサイル部隊である米国の第20空軍の約10倍です。10 そして2015年に、第2砲兵隊は中国の他の軍事サービスと同等の地位に昇格し、正式に人民解放軍ロケット軍に改名された。11

特定の任務に関して、米国海軍戦争大学のマイケルS. チェイスは、2014年に、人民解放軍ロケット軍のドクトリンがさまざまな抑止力、強制力、および強制的な作戦を要求していると書いた。抑止が失敗した場合、従来のミサイル攻撃キャンペーンの任務には、「敵のキャンペーンおよび戦略的深部地域の重要な標的に対して火力攻撃を開始する」ことが含まれる可能性があります。12 このようなストライキの潜在的な標的には、コマンドセンター、通信ハブ、レーダーステーション、誘導ミサイル位置、空軍および海軍施設、輸送および兵站施設、燃料貯蔵所、電力センター、および空母打撃群が含まれます。

チェイスはまた、「従来のミサイル作戦に関する中国の軍事文書は、驚きの重要性を強調し、先制攻撃の優先を示唆している」とも述べた。そして、ほとんどの中国学者は、最初に敵に後退する機会を与えることなく、危機における真の真っ青な攻撃の考えを軽視しているが、積極的な敵対行為を開始するための先制ミサイル攻撃は、中国が主張する「積極的な防衛。」13 中国のアクセス防止戦略に関する2007年のRAND調査で概説されているように、「このパラドックスは、敵の最初のストライキを「中国を領土的に崩壊させ、その主

権を侵害することを目的とした敵によるあらゆる軍事活動」と定義することによって説明されます。。そしてそれによって「戦略的な最初のショット」と同等のものをレンジングしました。」14中国のアナリスト、ディーン・チェンは2015年に同様に、「マオから現在まで、積極的な防衛の概念は、必要に応じてそれらのレベルでの先制行動を含む、運用上および戦術上のイニシアチブを確保しながら、戦略的防衛を想定することを強調してきました。」15したがって、中国は、先制ミサイル攻撃を、政治的または戦略的領域においてのみ、敵対者による中国の主権の脅迫（例えば、台湾または南シナ海への主張）に対する防御的な「反撃」と見なすことができる。

ある意味で、人民解放軍ロケット軍のドクトリンは、西側のアナリストが冷戦時代のソビエトがNATOの海軍に対処する計画について学んだことと類似しているかもしれない。ソビエトのドクトリンは、敵の作戦部隊とそれらを支援する兵站および司令部の両方に対する協調行動に重点を置いて、対潜水艦および対潜水艦戦の全体論的見解を取りました。核戦争では、ソビエトのドクトリンは、核巡航と弾道ミサイルを使用して、他の主要な施設とともに港の船を攻撃することを強調しました。16しかし、冷戦の終わりまでに、ソビエトのアナリストは、現代の高精度の通常兵器が「低収量の戦術核兵器との戦闘効果において匹敵する」ようになったと考えました。17低収量の核兵器効果に関する1975年のRAND企業の研究の調査は、この考えを確認しているようです。兵器の精度が数メートル（または数十フィート）に改善されると、従来の「ソフト」ターゲットの破壊の推定可能性兵器（おそらく.001kT弾頭に相当）は、標的を数百フィート逃す可能性が高い典型的な戦術核兵器の効果とほぼ同等に見えます。18多数の弾道ミサイルと非常に正確に結婚することにより、中国はソビエト軍にはなかった能力を開発した可能性があります。核兵器の使用、そして空気の優位性を確立することなく。2013年にイアン・ストーンが述べたように、

「中国軍は、最近まで核兵器の使用によってのみ達成可能であった戦略的効果を達成する可能性があります...冷戦中、NATOとワルシャワ条約機構の両方が核ミサイルユニットに他方の主要な空軍基地を破壊する任務を課しました。PLAは、従来の滑走路貫通サブ軍需品で武装した比較的少数の弾道ミサイルで同じ効果を達成することを計画している。

米国国防総省が最近発表した中国軍に関する議会への年次報告書によると、中国は現在、約1,200発の従来型武装短距離弾道ミサイル（SRBM、300～1000 kmの射程）、200～300発の中距離弾道ミサイルを配備しています。（MRBM、1000～3000 km）、従来の中距離弾道ミサイル（IRBM、3000～5,500 km）、および200～300の地上発射クルーズミサイル（GLCM、1500 + km）の数は不確定です。2015年のRAND調査では、同様の規模の2017年の在庫見積もりが提供され、中国の弾道ミサイルの精度が向上すると、数メートルの精度で数分で固定目標を攻撃できる可能性がある」と推定されました。RANDはその主要な米国を評価しました

そして近年、人民解放軍ロケット軍は、上記の先制攻撃の実行を支援するために必要な特定の標的能力を実現しているように思われる。例として、オープンソース文献の2009年のRAND研究は、フレッシュット弾がミサイル発射装置、駐機中の航空機、燃料タンク、車両、防空兵器、および港の船に対して使用される可能性が高いことを示唆しました。22貫通弾薬は、飛行場の滑走路、航空機のシェルター、および半地下の燃料タンクに対して使用されます。23シーケンシングに関して、この研究は、弾道ミサイルの最初の波が防空とコマンドセンターを無力化し、軍用飛行場の滑走路を火口に入れ、航空機を地上に閉じ込めることを示唆しました。これらの最初の麻痺する弾道ミサイルサルボの後には、巡航ミサイルの波と、堅固な航空機シェルターを標的とする航空機、屋外に駐機している航空機、および燃料の取り扱いと保守の施設が続く可能性があります。

これらの機能は、中国西部のゴビ砂漠の端にある弾道ミサイル衝撃試験場（図2を参照）です。すでに試験されている可能性があります。24商用衛星画像は、車両のグループ（おそらく、移動式の空中およびミサイル防衛バッテリーを表す-図3を参照）、屋外に駐機している航空機のターゲット（図4）、燃料貯蔵所（図5）、滑走路クレーターサブ軍需品テスト（図6）、電力設備（図7）、および堅固化されたシェルターとバンカー（図8）およびコマンドセンター（図9）への貫通軍需品の配達。注目すべきことに、上記の2007年のRAND調査では、サブ軍需品は一般に多くの空軍基地で戦闘機を収容するために使用される堅固化されたシェルターを貫通できず、中国の弾道ミサイルは単一弾頭を使用した直接攻撃の高い割合を保証する精度を欠いていると述べています。したがって、「堅固化された避難所にいる戦闘機は、中国の弾道ミサイル攻撃から比較的安全です。」これは明らかに

や当てはまらないようであり、貫通弾頭をコマンドセンターなどの施設に数分で正確に届ける実証された能力は、コマンドスタッフとともに、攻撃。

中国は人民解放軍ロケット軍の進歩能力を発揮することに恥ずかしがり屋ではありませんでした。北京は、2015年の70周年記念パレードで最新のミサイル（DF-26「グアムキラー」ミサイル25など）のいくつかを公然と展示し、誰かが要点を見逃した場合に備えて、ミサイルの識別を西洋の文字で側面に描いた。26人民解放軍ロケット部隊はまた、複数の調整されたミサイル発射の採用とサブ軍需品の使用を示す募集ミュージックビデオやその他のテレビ映像を公開した。